



# 日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2015.10 第61号



提◆言

## 国際列車に乗り遅れないために

日本SPF豚協会副会長  
株式会社サンエスブリーディング代表取締役社長

秦 政弘

養豚業界を顧みると、TPP・FTA・EPAなどの自由貿易問題、疾病問題、HACCP・ISO・BCP・トレサビリティ・コンプライアンス・ベンチマーキングなどのマネジメント関連等々課題が満載です。他にもアニマル・ウェルフェア、環境問題、労働力不足、後継者問題、六次産業化、銘柄化、食の安全・安心、多産系育種、異常気象、為替、原料高など、枚挙にいとまがありません。

環境変化、情報化時代に対応するには情報を適正に選択することが大切です。活字になってからでは遅いと言われる昨今、重要なのは、自分の経営する農場を正確に把握し「ぶれない」経営方針と「あきらめない」原因追究・要因分析で、「経済効果が認められ、実行できる」対策を選択することです。そのためには、常にリスク管理（生産性向上に関するリスク項目とその分析）を行ない、情報に流されない工夫をすることが必要ではないでしょうか。

リスク分析の基本は「豚から学ぶ」です。学んだことをスケール（物差し）として評価すること、また、時として第三者の指導を受けることも重要になってくるでしょう（指導者によって蘇ることもあります）。リスク管理の徹底で、方向性を見失うことなく、無駄のない改善ができ、国際列車に乗り遅れない経営ができると信じております。また、ベストに学ぶ（ベンチマーキング）ためにも自農場を正確に分析しておくことが重要でしょう（協会におけるベンチマーキングにおいて、上位の顔触れが固定化（常連化）しているのはなぜでしょうか…）。

自農場を正確に把握する、また、第三者からの適正な指導が受けられるシステムに協会の認定制度があります。認定制度は「防疫設備基準（豚の生理・生態の特徴を考慮した基準）」、「防疫管理基準（感染経路が不明確な点も考慮）」、「認定評価基準細則（特定疾病の科学的な裏付け）」により構成されており、バイオセキュリティのみならず上述した危機管理でのチェック、リスク項目が充実していると思います。認定農場では、認定委員会（第三者）による合否判定のみでなく、「維持継続されているか否かの確認作業」も含まれており、維持継続されていない場合は認定取消やリスクの見直しの提言が発せられます。リスク管理ができ、改善対策を構築するうえで活用度の

高いシステムとなっており、認定取得と関係なく多くの生産者に活用していただきたいものです。

この認定制度には欠点もあります。生産性に関与する三要素として、①育種、②衛生管理、③飼養管理があります。②、③により①の能力は十分発揮されると確信していますが、豚が優秀な遺伝能力を持っていることが前提条件となります。養豚界においては②、③に関しては高水準へと移行、平均化しており、今や①の育種改良が特に重要となっています。SPF豚生産者は協会規則により遺伝子の導入～普及に時間を要するためGP・CM農場の生産性に影響を与えており、国際列車に乗り遅れる危険性を抱えていることは否めません。

SPF豚認定制度は「新興・再興疾病の見張り役」、「リスクチェックポイント」、「ベンチマーク」「安全・安心の食」などからも重要なシステムであり、規則を守る、守らせることは今以上に大切になってくると思います。一方で、育種関連、特に優秀な遺伝子の導入などは時代に対応すべく英知をしぼり、新技術（検査精度・検査方法）を活用しながらスピードアップさせたいものです。

また、育種については「オール・ジャパン」での取り組みが推進されていますが、他国からの遺伝子導入に際しては、「金は持ち込んでも菌を持ち込まない」システムの構築が重要です。豚の能力を正しく評価し、築き上げた遺伝子を配布する際に、菌をも配布する事がないようSPFシステムで取り組んでもらえれば、SPF豚関係者の願いである育種も大きくスピードアップされるのではないのでしょうか。

SPF豚認定制度は今や生産者のみでなく、消費者、関係者に広く浸透しつつあります。規則を営利ありきで利用するのではなく、多方面にわたる信頼関係を守ってこそ営利に結びつくのではないのでしょうか。CM農場やGP農場は生産性を重視せざるを得ないのも確かですが、GGP農場においては、外科的手術によるSPF化が基本であり、万が一特定疾病に感染した際、清浄化達成＝SPF豚認定農場としての復活、では規則の拡大解釈であり、信頼を失うことになりかねないと思います。

急がば回れ、自分で自分の首をしめることなく、信頼関係と技術の集約ができれば、国際列車をリニアモーターカーで走ることも夢ではないでしょう。

# H27年度 S P F 豚セミナーを開催します

## 高成績農場や6次産業化の取り組みを紹介

### 11月5日(木)、東京・KKRホテルで

今年の日本SPF豚協会主催「SPF豚セミナー」は11月5日(木)、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催されます。開始時間は会場の都合で午後2時からとなります。会員の皆さんはもちろん、どなたでもご参加いただけます(参加費無料、懇親会費は別途、次ページの開催要項をご参照下さい)。

プログラムとしては例年行なわれている生産成績優秀CM農場の表彰があります。今回は9回目を数えます。認定時の総合生産成績指数が3年連続して上位25%に位置し、かつA薬品費の金額が基準値を下回っている農場を対象に、3年間の生産成績の平均値が最高の農場を「総合生産成績最優秀農場」、同様に1母豚あたりの年間肉豚出荷頭数が3年平均でもっとも多かった農場を「商品化頭数部門最優秀農場」としてそれぞれ選出、表彰するものです。先日開催された選考委員会によって、それぞれの表彰農場が決定しています。

セミナーに参加いただいた方にご意見をうかがうと、「高成績をあげている農場の話が聞きたい」という声が多く聞かれます。

そこで今年はそれぞれの表彰農場にそのポイントを発表していただくこととなりました。両農場とも高成績を常時維持されている表彰常連農場です。成績アップのヒントとなる貴重なお話をお聞かせいただけたと思います。

また、現在国を挙げて取り組んでいる農業の6次産業化。政府は2年前に「農林漁業成長産業化支援機構」(A-FIVE、エーファイブ)を立ち上げ、農業ファンを活用した農業者の販売展開、商品開発の強化の促進を図っています。

そのA-FIVEを活用した北海道の畜産業第1号事例となったのが、森町の認定農場・(有)道南アグロの直営販売会社「ひこま豚」です。社長の日浅順一さん



昨年のセミナーの様子

は同農場社長の日浅文男さんの息子さん。SPFポーク専門店勤務の経験や培った人脈を活かし、2年前に「株式会社ひこま豚」を設立、イートイン付きの直売店をオープン、道南アグロ産SPF豚肉の加工・販売を手がけています(協会だより56号「SPFのお店」にて紹介)。地元根ざした着実な経営のかたわら、北海道全域や東京、大阪など首都圏にも販売先を拡大、順調に売り上げをのばしています。

日浅さんには、ファンを活用したきっかけから出資が決まるまでの経緯、現在に至るまでのさまざまな成果や課題、今後の展望について具体的にお話しいただけます。実践者ならではの、大変参考になる内容かと思えます。

その他にも「認定農場の生産成績年次報告」も例年同様事務局より報告します。

セミナー終了後、引き続き、懇親会も執り行います。毎年ご好評いただいている認定農場産SPFポークのしゃぶしゃぶ、骨付きハムやソーセージなどの加工品も多数用意し、ご賞味いただきます。

会員の皆さんはじめ多くの皆さんのお越しをお待ちしております。ぜひご参加下さい。

# 平成27年度SPF豚セミナー開催要項

日時 平成27年11月5日(木) 14:00~17:00 会費:無料

場所:KKRホテル東京(地図参照) 11階「孔雀の間」

## <プログラム>

- 開会のあいさつ
- CM認定農場生産成績年次報告(2014) 14:05~14:30  
藤田 世秀・日本SPF豚協会専務理事
- 生産成績優良農場表彰式 14:30~14:50  
・生産成績上位農場の解説  
・選考結果報告、講評  
・表彰(表彰状・トロフィー授与)
- 事例発表①「高成績を上げるためのポイント、気をつけていること」 14:50~15:20  
総合生産成績部門最優秀農場(表彰農場)
- 休憩
- 事例発表②「高成績を上げるためのポイント、気をつけていること」 15:40~16:10  
商品化頭数部門最優秀農場(表彰農場)
- 講演 16:10~17:00  
「認定農場における農業ファンドを活用した6次産業化の取り組み」(仮題)  
榊ひこま豚代表取締役・日浅 順一氏(北海道森町)
- 閉会のあいさつ

◆懇親会◆ 17:30~19:30 会費:5,000円

<お申し込み方法> 同封の申し込み書にて、下記までFAXでお申し込み下さい。

●申込期日 **10月30日(金)まで** ※定員(150名)になり次第締め切らせていただきます。



お申し込み・お問い合わせ先

日本SPF豚協会

FAX 03-5835-5376

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
ニューセンチュリービル7F

TEL 03-5835-5375

KKR HOTEL 東京

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

TEL.03-3287-2921 FAX.03-3287-2998

交通のご案内

●地下鉄東西線竹橋駅3B出口から専用通路●首都高速環状線神田橋出口から2分●JR東京駅(丸の内口)から車で5分

# ウイルス性下痢症②

(独)農研機構 動物衛生研究所 宮崎 綾子  
ウイルス・疫学研究領域

## 豚流行性下痢と伝染性胃腸炎 (1)

豚流行性下痢 (PED) と伝染性胃腸炎 (TGE) は、下痢、嘔吐、そして食欲不振を主徴とする急性ウイルス性下痢症で、家畜伝染病予防法に基づき届出伝染病に指定されています。この二つの疾病は、①1週齢以下の哺乳豚での発症率と死亡率が高い、②どの日齢の豚でも発症する、③豚群内で伝播しやすい、という特徴から他のウイルス性下痢症とは異なり、発生には常に警戒が必要です。

PEDは2013年10月に国内で7年ぶりに発生して以降、約10ヶ月の間に38道県で817件の発生があり、約129万頭が発症し約42万頭が死亡しました。2014年9月以降の発生は28都道県で233件と減少していますが、発生後、ウイルス常在化に苦しむ発生農場も少なくないようです。TGEは、PED発生の影に隠れがちになっていますが、2010年から2012年における発生件数が1件のみであったのに対し、2013年は8件、2014年は14件と増加傾向にあるので、依然としてPEDとともに発生に警戒が必要です。

PEDとTGEは、コロナウイルス科アルファコロナウイルス属に分類されるPEDウイルスとTGEウイルスの感染が原因となります。同じウイルス属に分類されますが、ウイルス中和試験で両ウイルス間に交差反応性はないため、PEDウイルス感染豚はTGEウイルスに感染しますし、またその逆も起こります。両ウイルスとも体内侵入後は小腸で活発に増殖し糞便中に大量に排泄されるため、ウイルスは糞便を介した経口感染により、豚から豚へと伝播します。また、農場間ではウイルスを排泄している豚の導入、ウイルスを含む糞便に汚染された車両、靴、餌、そして器具機材などの媒介物によりウイルスが伝播します。

ウイルスが抗体陰性農場に侵入すると、農場全体に急速な症状の拡大を伴ってまん延します。その後、農場全体の豚が感染後免疫を獲得するため、ウイルスは農場から消失します。ところが、ウイルスが消失する前に絶え間なく抗体陰性の感受性豚が供給される場合、そして農場内外から頻繁にウイルスが供給される場合にウイルスが農場に常在します (図)。このような場合、

母豚からの乳汁免疫が消失する離乳前後の豚や豚舎移動前後の育成豚で軽度の下痢として発生が認められます。症状が軽度であるために、臨床症状によりPEDまたはTGEと診断することが困難です。このようなウイルス常在農場は他農場への感染源となるため、日頃から豚をよく観察し、どの日齢の豚においても下痢や食欲不振が長引いたり広がったりする場合にはPEDとTGEを疑って病性鑑定を実施し、まん延防止に努めることが重要です。

次稿では、PEDとTGEの予防と対策についてご紹介いたします。(以下次号)

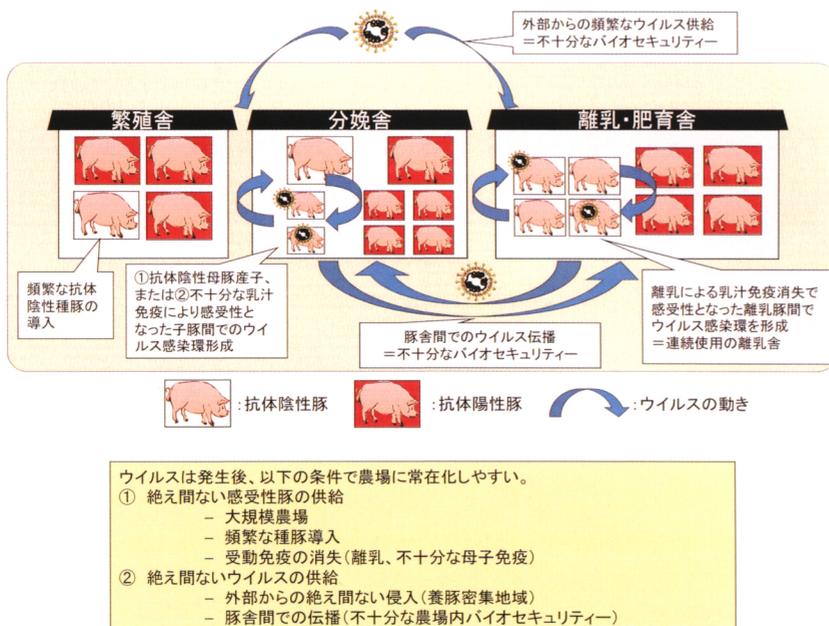


図 PEDウイルスまたはTGEウイルスの常在化要因

## イノシシの侵入を防ぐ

岐阜大学応用生物科学部特任助教 森部 絢嗣

イノシシは、高さ1.2m以上の頑丈な金属製フェンスで防ぐことができます。しかし、そのような柵がない畜舎や柵が途切れてイノシシの侵入を許している場合、電気柵を使うことによって簡単に侵入を防ぐことが可能です。図1は、イノシシが出没する畑の周りに電気柵を張り、大型のイノシシの侵入を防ぐことに成功した様子です。大型のイノシシであっても電気柵を適切に張れば防げます。

電気柵は1メートルあたりの単価が300円前後であり、設置も楽にできます。周囲100mの柵であっても1人で1時間もあれば、張り終えることが可能です。資材もホームセンターで入手できますし、インターネットでもさまざまな種類が売られています。安価で簡単に設置でき、防護効果もある電気柵ですが、張り方を間違えると効果がなくなりますので、電気柵を張る際には、以下のことを必ず守ってください。

### ①電気柵のワイヤーは、動物にあった高さに！

イノシシの場合は、20cm間隔でワイヤーを張っていきます。つまり地面からの高さは1段目が20cm、2段目が40cmです。特に重要なのが1段目です。これが30cmになるとイノシシは潜って入ってしまいます。地面に凹凸がある場合は、支柱を追加して間隔が広がらないようにします。通常、2段でも防ぐことが可能ですが、斜面などでは、山側から飛び越えることもありますので、そのような場所では20cm間隔で3段目を張るとより効果的です。



図1. 畑を電気柵で囲い、大きなイノシシの侵入を防いでいる様子

### ②張ったら、すぐに電気を流す

イノシシは、いろいろなものを鼻で確認します。電気柵の効果を最大限に発揮させるためには、イノシシが初めてワイヤーへ触れた時にショックを与えることが極めて重要です。この最初の電気ショックを与えられないとイノシシは安全なモノと認識し、2度目以降はワイヤーに触れることなく侵入します。こうなってしまうと、電気柵は無用の長物となってしまいます。

### ③電気は常に流す（1日中）

動物が行動するのは、夜だけではありません。電気が流れていない昼にやってくることもあります。その時、電気が流れていないと②のように電気柵は効かなくなります。

### ④電圧は4000ボルト以上！

草や倒木がワイヤーに触れることで、漏電することがあります。常に電圧テスターで確認します。ワイヤーのつなぎ目で漏電していることもあるので、末端はしっかりとビニールテープなどで巻き付けておきます。雑草の管理が大変な場合は、電気柵の下に防草シートを張ったり、除草剤をまいたりして管理の手間を省きます。敷地の地面がコンクリートやアスファルトの場合、適切な電圧を確保できないことがあります。その場合、導電性の防草シートと電気柵本体のアースを接続し、導電効果を高める手法もあります。

### ⑤電気柵を使わない時は撤去する

電気柵を一時的に使わない場合、ワイヤーを張りっぱなしにしないで撤去します。電気を流さず柵を放置しておく②のように電気柵の効果を失います。

以上の5項目を守るだけで、イノシシの侵入を防ぐことができます。電気柵は安価で効果的な防護柵ですが、日頃のこまめな管理が必要です。管理が難しい場合は、頑丈な金属製の柵をおすすめします。この金属製の柵と電気柵を併用することで他の獣種の侵入を防ぐことも可能です。(以下次号)

## ●今年もちくさんフードフェアに出展します！

協会では日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア2015」(10月10日(土)～11日(日)、川崎市・日本食肉流通センター敷地内)に出展いたします。「川崎みなと祭り」と合わせて開催されるこのフェアは毎年2日間で10万人を超える来場者を数えます。去年は好天に恵まれ、過去最高の人出を更新するなど大盛況でした。

協会の出展は6度目となります、認定農場産豚肉のしゃぶしゃぶ試食、アンケート調査、SPFポークの加工品が当たるお楽しみ抽選会などを行ないます。しゃぶしゃぶは大好評で、協会ブース前は例年長蛇の列となります。

入場は無料です。ぜひご来場いただき、協会ブースにお立寄り下さい。お待ちしております。

日時：10月10日(土)、11(日)

10:00～16:00

場所：(財)日本食肉流通センター  
神奈川県川崎市川崎区東扇島24  
TEL. 044-266-1172

お肉の「おいしさ」。「食べる楽しさ」を体験しよう  
**ちくさん  
フードフェア  
2015**  
日時 10/10(土)・11(日)  
10:00am～4:00pm  
場所 公益財団法人  
日本食肉流通センター  
川崎市川崎区東扇島24 TEL.044-266-1172  
URL: http://www.jmtc.or.jp  
物産牛・熟成干豚牛・さつまいも・  
かこしま豚肉・富山牛・日本短尾牛・  
熟成黒毛和牛・生持かきわひ牛 など  
「一押し食肉」の  
試食・展示・販売！  
会場直行無料バス  
入場無料、無料駐車場完備  
第34回ちくさんフードフェア・ジャパンミートピア2015inかながわ

<http://www.jmtc.or.jp/jmtc2/annai/annai1.html>

### <交通機関のご案内>

- JR川崎駅東口・京急川崎駅より会場直行無料バスが出ます(市営バス11番のりばより随時運行)
- 無料駐車場完備  
川崎市街から約30分  
(国道132号線、海底トンネル)  
首都高速湾岸線東扇島出口から約8分

### ●認定委員の就任

9月より、協会SPF豚農場認定委員会の学識経験者委員に、独立行政法人農研機構・動物衛生研究所の前所長で、現在は一般財団法人生物科学安全研究所専務理事の濱岡隆文氏が就任されました。

### ●SPFポークのお店をご紹介ください

協会だよりでは全国の会員などの直売所、認定農場産SPFポークにこだわる精肉店や小売店、レストランなどの飲食店を随時掲載、ご紹介しています。編集部がどこにでも取材にうかがいますので、ぜひご連絡下さい。お待ちしております。

### ●SPFポークリーフレットご活用ください

SPFポークリーフレット(A6判見開き4ページ、一部改訂)を認定農場やSPFポーク取り扱い店などには無料で差し上げております。販促資材としてご活用下さい。ご希望の方は協会事務局(TEL.03-5835-5375)までお問い合わせください。

### ◆訃報◆

#### 海老成直

#### 協会顧問会会長がご逝去

協会の前事務局長で顧問会会長の海老成直先生(獣医学博士)が、8月7日、神奈川県内の病院で亡くなりました。享年90歳。

先生は大学で教鞭をとられた後、清水港飼料中央研究所の所長に就任、SPF養豚事業推進に多大なるご尽力を賜りました。協会関係者には直接ご指導いただいた方も大勢おられます。長い間大変お世話になりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



<編集部よりお詫びと訂正>前号の「SPFのひと」の記事で、川島力さんのお父様を編集部の勘違いで故人と記載してしまいました。川島先生は元気でご存命でいらっしゃいます。大変失礼いたしました。訂正し、心よりお詫び申し上げます。

## みのりの秋と豚肉のおろし煮

●レシピ提供・「ひこま豚食堂」店長 附田 明広（北海道森町）

暑さと大雨の夏がようやく過ぎて、いよいよ秋本番。今回は季節感あふれるヘルシーメニューです。豚肉と相性のよい野菜やきのこ類を合わせ、その名も「うまだし」を使ったプロの味をご紹介いただきました。

### ●材料（2人分）●

SPF豚ばらうす切り 100g  
なす 1本、さつまいも 4分の1本  
もめん豆腐 4分の1丁、片栗粉 適宜  
椎茸 3個、舞茸 4分の1パック  
しめじ 3分の1パック、えのき 3分の2パック  
大根おろし 100g  
万能ネギ（小口切り）、あげ油 適量

<美味汁（うまだし）>

かつおだし 175cc  
薄口しょうゆ 50cc  
みりん 50cc

### ●つくり方●

- ① 美味汁の材料を鍋に入れて火にかけ沸騰したら火を止めておきます。
- ② 豚ばら肉を3cmほどに切り、なすは縦半分にして横に3等分します。さつまいもは2cm角のサイコロ状に、きのこ類は適当な大きさに切ります。
- ③ 豆腐の水気を切り、片栗粉をつけて油で揚げます。なすとさつまいもは素揚げします。
- ④ ①を火にかけ豚肉ときのこ類を入れ、火が通ったらなすとさつまいも、大根おろしを加えます。
- ⑤ 器に揚げた豆腐を入れ、④を上から盛り付け、その上に万能ネギをちらしたら完成です。

### 【附田シェフからのアドバイス】

材料と美味汁は手早く合わせましょう。火にかける時間が長いと味が濃くなってしまいます。



## ●認定情報●

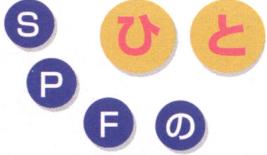
### ●平成27年度認定農場

[9月認定] (有効期間:平成27年9月10日から28年9月末日まで)

北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、(有)浅野農場、岩手県・(有)ケイアイファウム北上農場、(農)八幡平ファーム、秋田県・全農畜産サービス(株)秋田SPF豚センター、(有)ファームランド、(株)ナカシヨク八竜繁殖農場、同大口繁殖農場、同能代離乳農場、(有)ポークランド第二農場、山形県・(株)ナカシヨク庄内繁殖農場、同庄内肥育農場、同鶴岡肥育農場、茨城県・常陽発酵農法牧場(株)、(有)米川養豚場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、栃木県・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、群馬県・(有)ほそや、長野県・長野県農協直販(株)SPF種豚センター、(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)タローファーム、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、千葉県・岡野朝雄養豚場、(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、

同第2肥育農場、同第1肥育農場、(有)菅井物産飯岡SPF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡農場、埼玉県・(有)松村牧場、新潟県・(株)ナカシヨク荒川繁殖農場、同中条離乳農場、同下田肥育農場、同長峰肥育農場、同上中山肥育農場、岡山県・岡山JA畜産(株)梶山農場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、愛媛県・JA全農愛媛県本部広見種豚増殖センター、香川県・(株)七星食品多和ファーム、大分県・(有)九重ファーム、熊本県・(有)高森農場、宮崎県・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)守山畜産、鹿児島県・(株)シムコ鶴田事業所、(株)ファームテック大口農場、(有)新留養豚、同第二農場、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、そお元気(株)ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場（以上58農場）

※次回認定委員会は平成27年12月10日（木）の予定



(株)西日本ジェイエイ畜産  
**小椋 和典さん**  
●鳥取県琴浦町

## 安心して再生産できる養豚経営、働きやすい現場づくりを心がけて

鳥取県のSPF豚認定農場は現在3農場。いずれも(株)西日本ジェイエイ畜産の直営農場です。その責任者が今回ご紹介する小椋さんです。

鳥取県中部の山間地である関金町(現倉吉市)出身の小椋さん。平家の落人伝説を彷彿とさせる慣習が残っている地域だとか。ご実家は農林業の専業。とくにお父さんが始めた原木しいたけ栽培は当時個人としてはトップクラスの規模で農林大臣賞をもらうほどだったそうです。少数ながら家で牛も飼っていましたが、「実はあんまり好きじゃなかったですね(笑)」。

としながらも大学進学は東京の農学部、「長男だし、卒業後は鳥取に帰るつもりでしたから、まあ漠然と」。農業経済を専攻、志望通り地元に戻って農協に就職しました。

主に融資や補助事業を担当、支所長や経営改善室、監査室などの業務にも携わった後、畜産課長時代に農協再編に伴う異動で現在の会社に移ることになりました。3年前から現在の養豚事業部長として農場経営に取り組んでいます。

小椋さんが気をつけていることは「豚を飼ったことのないのに、プロである農場の人に技術的なことを教えるのは失礼。数字やデータを基に、こうした方がいいのでは、というアドバイスができれば…」農協時代に経営指導を学んだ経験が役に立っているそうです。



毎週必ず3つの農場を回り、状況を確認、月に一度は3農場合同の検討会も開催しています。「どうすれば現場の人が働きやすいか、いつも考えているつもりです。畜産現場は大変、というイメージですが、若い女性も2人ががんばってくれています。自慢の社員ですよ」。

小椋さんが取り組むのは販売面の強化。生協との直接取引は30年近く続いています。「自分で生産したものの値段を自分で決められないのが農業。それではおかしい。きちんと利益が出る、再生産できる事業にしていけないといけないと思っています」。

就職してすぐに結婚した小椋さん、2男2女のお子さんのうちすでに3人が結婚、54歳にして、お孫さんがなんと7人(!?)。若いおじいちゃんです。「3つ下の家内は孫たちを連れて外出すると『おばあちゃんですか!』ってもっと驚かれましたよ(笑)」。

子どもの頃から勝負事が好きだったという小椋さん。学生時代はマージャンが得意で「負けたことがない。学生では相手にならなかった」とか。持ち前の勝負強さと先を見る目で厳しい環境を乗り切っていくことと拝察いたしました。(編集部)

**編集後記** 9月上旬の線状降水帯による、関東・東北豪雨の惨憺たる被害は、3.11同様、目を覆うばかりでした。被害に遭われた方々の、一日も早い復興を祈るばかりです。さて、「提言」にもある通り、養豚業界を取り巻く環境は不透明感をぬぐえません。食糧・穀物の世界的値下がりの中、日本では円安もあってその恩恵は少ないようです。そんな中、豚肉相場は月平均450円以上が、20か月連続しています。余裕をもって、再生産できる事業に転換する絶好のチャンスです。見逃してはいけません(世)。



**日本SPF豚協会認定農場産シール**  
このマークは  
**日本SPF豚協会の**  
登録商標です

**日本SPF豚協会だより**  
第61号 2015年10月1日発行(季刊)  
発行 一般社団法人 日本SPF豚協会  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376  
e-mail : j.spf.a@nifty.com  
http://www.j-spf.com/  
発行人 北島 克好  
編集人 藤田 世秀